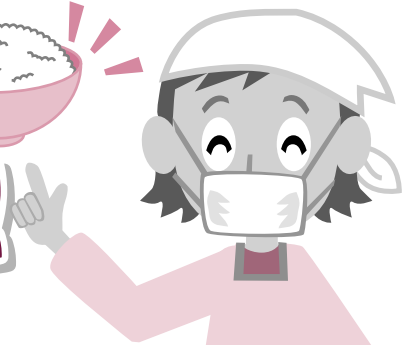


## 阪神間都市部で初! 完全米飯給食を達成!



いただく  
意味を考えて

ビタミン、ミネラルなど、目的に応じて様々なサプリメントが流行しています。少しでも健康に良いものを選び、口を通して摂り入れる流れは自然なことでしょう。

ところが、一般に健康に良いからといって、サプリメントや栄養ドリンクを小さな子どもにも与え続けると、健康な子どもとして成長できるのでしょうか。

答えは「ノー」です。人間は水栽培の植物ではないし、かえって病気になることさえあるのです。

自分のために料理を作ったことに感謝し、目の前



の食事の季節感を学び、色合いを目で、歯で触感を、耳で音を楽しみ、鼻で匂い、舌で味を感じます。噛むことにより脳に刺激を与え、消化しやすい大きさにしたうえで飲み込み、満腹感を得て、文字通り血となし、肉として生きています。さらに、食材となった動物や植物の「いのち」に思いを馳せ、感謝を込めて「いただく」のは、人間だけなのです。

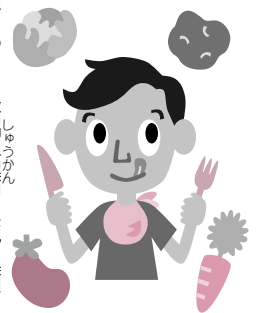


健康のために

昭和23年、川西小学校で米国等の援助を受けてミルク給食を始めて以来、パンを主食、副食とミルクをセットにした給食になり、今にながります。家庭では戦後の復興から高度成長期に移り、食の欧米化が進みました。食卓の様子が変わり、核家族化も相まって、米を主食とした和食の「おかず」

(文化)の伝承がなくなり、懐かしい献立や各家庭の自慢の味付けが失われました。また、全国的な統計では国民の肥満

傾向や、生活習慣病(成人病)が子どもにも発症するといった例が報告され、食文化と関係することがわかってきました。



米飯が見直されています

こうした背景のもと、せめて学校給食では「米」を食へ、和食の良さを見直し、「食育」を通じ、一人ひとりの食生活を見直すきっかけとなるよう、国をあげて様々な施策が実施されています。川西市では昭和51年に月1回の米飯給食を開始し、34年かけてようやく『米飯給食の完全実施』を達成しました。今後、健康や文化など何世代にも引き継がれる大切なことを、阪神間で最初に達成できたことなど、数々の協力者に感謝するとともに、子どもたちの未来に期待して大切に運営していきたいと思

(お問い合わせ)

学務課 ☎(740)12438

## 笑顔



新年を迎え、川西の子どもたちが健康で素直に育ちますよう、

まずはお祈りいたします ◆次代を担う子どもたちには「生きる力を育む」知・徳・体のバランスの取れた教育の提供を目指しています ◆幼稚園・小学校では出来る限り自然に触れる機会を多く持っていたいただき、子どもたちが命の大切さや思いやりの気持ち、そして人知で計り知れないものに対する畏怖の念をもつてくれることを願います ◆中学校では、将来待ち受けている厳しい競争での挫折や敗北に負けないような強い心身を身に付けること、そして、各人が大きな志や夢を見つけ、実現に向けて努力を続けて欲しいと思います ◆子どもたちには、公共心や道徳心をしっかり身に付け、社会に貢献出来る若者に育ってほしいことが全てのおとなの願いではないでしょうか ◆幼稚園・学校教育に対し市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



教育委員長 松榮 徹

# 一人ひとりを大切にした特別支援教育を推進します

## 校園内体制の整備

市内の幼稚園・小・中・特別支援学校では、『特別支援教育コーディネーター』の先生が中心になり、『校園内委員会』の中で、一人ひとりに必要な支援の方法を考えています。そして、学校全体で支援を行っています。個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成し、活用しています。

**川西養護学校の教育相談**  
学校園への巡回相談

**兵庫教育大学との連携**  
大学院生と学校の連携

## 学校生活支援教員配置事業 (通級指導)

県事業の学校生活支援教員配置事業(通級指導)が、昨年度より始まりました。この事業は、通常の学級に在籍する児童生徒の中で教育的支援の必要な子どもたちに対して、どのような支援ができるかを探るために、兵庫県が実践的研究を行っているものです。今年度は拠点校2校と巡回相談校4校の計6校で通級指導(個別指導)を行っています。

**学生ボランティア**  
学生ボランティア制度を導入

**支援員**  
特別支援教育支援員を配置

**特別支援教育研修**  
教員の県主催特別支援教育の研修35講座等への参加

## お知らせ

青少年のための特別支援教育フォーラムが川西ロータリークラブ主催で開かれます。日時は平成23年4月16日(土)で、場所は川西市文化会館大ホールです。内容は、教育ジャーナリストの品川裕香しなかわ ゆかさんの講演やパネルディスカッションを予定しています。 ※入場無料

## 学生ボランティア、地域の若い力を教育現場に!

昨年より学生ボランティアを募集し、学校現場に派遣し、教育現場で大学生の皆さんに活躍してもらっています。学生ボランティアとは、様々な教育活動に地域の若い力を生かして特色ある教育を進めていくもので、将来教職を目指す大学生を中心に「お兄さん・お姉さん」という立場で幼稚園や学校の状況に合わせて活動をしています。

現在16名の登録があり、多田幼稚園で活動している三宅つかささんの感想を紹介します。「週に1度しか顔を会わさないのに名前を覚えていてくれたり、道で出会ったときに声をかけてくれたりす



るので、とても嬉しくずっと続けたいと思います。長い期間来させていただくことで、幼児の成長が小さなことでも感じる事ができます。幼稚園教諭の仕事内容、保育内容をじっくり見ることが出来るので、とても勉強になり、ボランティアをしたことで、これまで以上に子どもと関わっていきたい、教師になりたいという気持ちが強くなりました。」というような充実した意欲的な声が届いています。

川西市教育委員会では、随時学生ボランティアを募集しています。興味のある方、やってみようと思われた方は、学校教育課までご連絡ください。

(お問い合わせ)

学校教育課 ☎(740)1254へ

## 牧の台小学校の環境体験学習が「ひよこプロジェクトスクール」を受賞

### クヌギから学び、ふるさと川西へ

牧の台小学校では、黒川の里山で「クヌギ」を通して環境体験学習を行い、人と自然との共存や生物の多様性などを学んでいます。クヌギの苗の植樹や下草刈り、生長調べ、樹木の間伐など、現地での継続的な体験学習や、また、クヌギのドングリを植え、芽の出た苗を新1年生に引き継いで、3年生になったとき自分の育てた苗を山へ植樹する【学年を超えてつながっていく学習】も行っています。

そして、4年目を迎える3年生の環境体験学習の取り組みが認められ、「ひよこプロジェクトスクール」を受賞し、平成22年11月2日に兵庫県公館

にて表彰式が行われ、嶋田校長先生・担当教諭・6年生児童代表が出席しました。

今回の受賞は、牧の台小学校の子どもたちや教職員の皆さんの取り組みと、森林ボランティアの方々や地域・保護者の協力が評価されたものだと思います。これからも人や自然との関わりを大切に環境体験学習に取り組んでいけることを期待しています。



(お問い合わせ)

学校教育課 ☎(740)1254へ

# 第43回

# 兵庫県青少年補導委員 大会・研修会が川西市で 開催されました

平成22年11月17日(水)に川西市みつなかホールで、永年にわたって補導活動に取り組んでこられた補導委員の方々へ兵庫県知事から表彰状・感謝状などが贈呈されました。

川西市からは15名の補導委員の皆さんが受賞され、その中で、20年間補導活動を継続され、知事表彰を受賞されました南地区の山内秀明やまうち ひであきさんに、喜びを語っていただきました。



受賞後のインタビュー

振り返ってみれば、45才の頃から

## 知事表彰を受賞されてのお気持ちは?

ら自治会

活動に参

加するう

ちに、補

導委員に

お誘いを

受けてか

ら、もう

そんな年月

になったの

かと思っ

ています。

これも地域

の皆さんの

ご協力のお

かげと感謝

しています。

。



第43回兵庫県青少年補導委員大会・研修会

## これまでの活動を振り返って

いろいろな研修に参加して、子どもたちに対する接し方が変わりました。すぐに結果を求めず、長い時間をかけてじっくりと見守っていくことの大切さを知りました。

(お問い合わせ)

青少年センター ☎(759)9424へ

## いにしえのかわにし⑬

# 文化財資料館

奈良時代の落としもの  
榮根遺跡出土の木製墨壺

皆さんは大工さんが製材のために木材へ長い直線を引く墨壺という道具を知っていますか。墨壺とは、糸車に巻いた糸を墨に浸し、まっすぐ延ばして垂直に弾くことで墨線を引く道具で、現在も使われています。

日本最古の墨壺は、滋賀県で出土した6世紀後半のものと考えられています。これに続くものとして、市南部の榮町さかえまち、現在の榮南団地の地下に広がる榮根遺跡から奈良時代の墨壺が出土しており、県の重要有形文化財になっています。通常、木製品は腐食して残らないことが多いのですが、榮根遺跡の墨壺は自然河川に埋没し、空気に触れるこ



榮根遺跡出土墨壺

となく奇跡的に良好な状態で発見されました。

墨壺は寺院等の造営に不可欠な道具ですが、なぜ集落遺跡の榮根遺跡から出土したのでしょうか。そこで、榮根遺跡の北西側の高台に位置する奈良時代創建の可能性がある榮根寺との関連が考えられます。榮根寺の創建に関わった大工さんが高台の下の自然河川に大切な墨壺を落としてしまったのかもしれないね。

(お問い合わせ)

社会教育室 ☎(740)1244へ

### 高校生のお兄さん、お姉さんと英語で遊ぼう

#### 東谷幼稚園

川西北陵高等学校国際教養

コース3年生19名の生徒さん

たちが、これまで学習し身に付けたことを活かし、東谷幼稚園で英語教育実習を行いました。はじめはきりん組・らいおん組の年長さんも高校生のみなさんも少し緊張気味でしたが、ボール遊びをしたり、英語の歌にあわせて踊ったりしていくうちに、和やかな雰囲気になっていきました。

食べ物や動物などのピクチャーカードを使った英語ゲームやクイズが行われると、教室いっぱいには園児たちの元気な英語の発音が響きわたりました。絵カードやクイズの景品などを丁寧に製作し、グループごとに工夫した遊びを展開



これはなんですか？

開してくれました。このような活動をきっかけに、幼児期から英語に興味をもつ子どもたちが増えることを願っています。

また、川西北陵高等学校国際教養コースは本年度で最後になるそうです。最後の国際教養コースの生徒さんたちが、川西の次世代の子どもたちに向けて何かを残してくれたのではないかと思います。

### 基礎・基本の定着

#### 川西北小学校

川西市内の小学校では、新学習システムとして3年生以上の算数などの教科を少人数で授業を行っている

ところもあります。少人数授業とは、学年や学級をいくつかの集団に分割し指導するものです。

川西北小学校では、5・6年生の算数で少人数授業を行っています。1クラス40名をハーフサイズに分ければ20名。少ない人数にすることで集中力も増し、わからないところなどを質問しやすい雰囲気になります。教える側の教師としても一人ひとりに目が届きやすいので、個々の理解度を把握しやすく、つまずきも見つけやすいメリットがあります。

先生は全体学習として、学習のめあてやポイントを提示した後、個々の児童の状況に応じたきめ細かな指導をするために、一人ひとりに丁寧な言葉かけをして、子どもたちの理解度を見守りながら授業が進んでいきます。子どもたちは、集中し問題に取り組んでいました。全体として共通のつまずきが見られると、すぐに先生が黒板を使って全体に説明します。そこには「学習内容をしっかりと理解してほしい」という思いが込められています。



こうすればどうかな？

められています。学力の確実な定着、これが少人数授業のねらいの一つです。あわせて集中力や思考力もしっかりついているように思いました。子どもと教師の関わり方は、個性の伸長につながるでしょう。頭を悩ませながらそれでも粘り強く取り組んでいる子どもたちと、それを支援する先生の本当に素敵なまなざしに出会いました。

### 久代の地に50年

子どもたちのための50周年を合い言葉に

#### 川西南中学校

東には清流おどる猪名川、東・西

には生駒と六甲山系、北摂連山が一望できる自然豊かな久代の地に、昭和36年4月1日に川西南中学校から分離するかたちで川西南中学校が創立されました。この50年で、校長先生は現在の野原校長先生を含め12名、

325名の教職員、約14000名の卒業生が川西南中学校で過ごし、そして今633名の生徒が学んでいます。

11月3日に実行委員の皆さんを中心に2年間に及ぶ計画・準備を経て、『子どもたちのための50周年』を合い言葉に記念式典が行われました。

第一部では、川西市長をはじめとする多くの来賓の方々を迎え、3年生



有志17名による躍動感あふれる「南中太鼓」のオープニング演奏、綺麗に改修された正門の紹介、全校生による校歌斉唱。第二部では卒業生で日本フィルハーモニー交響楽団員トロンボーン演奏者の藤原功次郎さんと吹奏楽部とのセッションコンサートが行われ、生徒の皆さんが50周年をお祝いしている気持ちが、会場にいる者の心に伝わってくる式典でした。

校長先生の挨拶で、「PTAと学

校の深い関わり」「人に優しく、人間として温かい生徒」と川西南中学校の素晴らしいところを二つあげられました。まさに、50年という長い間学校は、地域の方の多大なる協力と生徒一人ひとりの学校に対する思いに支えられこの日を迎えたと思います。

これから100年、150年またその先も川西南中学校が地域の中でたくさんの方の手によって輝き続けることを願っています。



オープニングの南中太鼓